

研究主題「日本人としての誇りを育む道德の時間の指導の工夫

—日本の伝統・文化の価値への気付きを通して—

東京都教職員研修センター企画部企画課
目黒区立目黒中央中学校 主任教諭 濱島 美佐子

第1 研究のねらい

中央教育審議会答申(平成20年1月)で、「世界に貢献するものとして自らの国や郷土の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けてこそ、グローバル化社会の中で、自分とは異なる文化や歴史に敬意を払い、これらに立脚する人々と共存することができる。」と伝統や文化に関しての教育の充実が示されている。

しかし、東京都教育庁指導部「日本の伝統・文化理解教育の推進」(平成20年12月)では「時代の変化とともに、家庭や地域社会において子供たちが伝統や文化について理解したり経験したりする機会が減っています。」と、日本の伝統・文化を学ぶ機会が減少していることを指摘している。

また、道德教育推進状況調査(文部科学省・平成15年)の「道德の時間の指導において、特に重点を置いて指導している内容項目24項目の中から『5つを選択』(中学校第1学年)によると、内容項目4

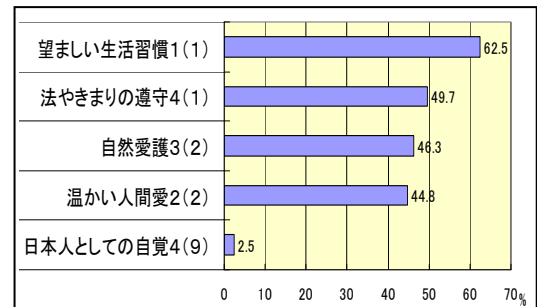


図1 道德教育推進状況調査中学校第1学年より
*上位4項目と比較して(平成15年)

(9)「日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。」の取り扱い状況は、24項目の中で一番低くなっている(図1)。

さらに、外国へ行ったときに日本人が日本の文化について説明ができず国際的に通用しないという事例が一日中央教育審議会(東京・平成14年11月)でも報告されている。

このような背景の中にあって、ますます国際化は進み、世界で活躍できる日本人を育成することは学校教育の大きな役目の一つとなっている。そのために、まずその基礎となる伝統・文化をはじめとする自国に関することをよく学び、自国に誇りをもてる心を育むことが大切なことだと考えた。そして、自国に誇りをもつことは、国家の発展に努め、自国の伝統・文化を継承し、発展させるための原動力となり、他国を尊重する心につながるものと考えた。

以上のことから、本研究では道德の内容4(9)に焦点をあて、生徒たちが日本の伝統・文化に関心を持ち、その価値への気付きを通して日本人としての誇りを育む道德の時間の指導の工夫をすることを研究のねらいとした。

第2 研究の内容と方法

1 基礎研究

まず、日本のよさについて言及している文献を調査した。理論物理学者アインシュタインは日本人について「私に深い印象を与えているものは、この地球という星の上に今もなお、こんな優美な芸術的伝統をもち、あのような簡単さと心の美しさをそなえている国民が存在しているという自覚であります。」(「世界の偉人たちから届いた10の言葉」より)と述べ、アメリ

カ政治学者サミュエル・ハンチントンは、「日本は大文明の一つ」（「世界の偉人たちが贈る日本賛辞の至言33撰」より）と、日本を高く評価している。また、現代においても、海外からの旅行者や移住者から、「日本の文化には独自性があり、素晴らしい。」などの日本への賞賛の声が寄せられている。特に興味深かったのは、江戸時代の商人が「人とうまくつきあっていくすべ」としてまとめた「江戸しぐさ」とも共通する、現代の日本人も行う日常的な行動に、海外の人が「勉強になる」という評価をしていることであった。

歴史ある日本の伝統や文化について、海外からこのように高い評価を受けているということを生徒たちが実感すれば、伝統的に引き継がれてきた日本の文化をさらに大事にし、より発展させていこうとする意欲が高まるのではないかと考えた。これを「世界からの視点」と位置付けて、指導の工夫として取り入れることとした。また、世界から賞賛を受けている日本人の日常的な行動は、多くの中学生にも経験があるものと予想されることから、それを生徒自らの視点「身近な視点」とすることとした。これらの2つの視点を指導に取り入れることで、自分の内部にある経験が価値付けられ、自分の考えや行動に自信をもち、日本の伝統・文化にさらに誇りを感じられるようになるのではないかと考えた。そこで、これらの視点を取り入れた道徳の時間の題材と指導の工夫を検討し、検証することとした。

2 研究の仮説

日本の伝統・文化を、「身近な視点」と「世界からの視点」から捉えることができる指導の工夫を行えば、生徒は日本の伝統・文化の価値に気づき、日本人としての誇りを育むことができるであろう。

3 調査研究

都内公立中学校第1学年130人を対象に「我が国を愛する心」についての調査研究を行った。

生徒が、日本について誇れるものとして捉えているものについては、「日本の文化」が最も多いものの26%（複数回答可）にとどまった。基礎研究でも述べた通り、日本には海外からも高く評価されてきた文化がある。そこで、日本の伝統・文化に焦点をあて、考察を深めることで、日本人としての自覚を深め、誇りや自信をもって生きていくことにつなげられるような授業を構築することを目指すこととした。

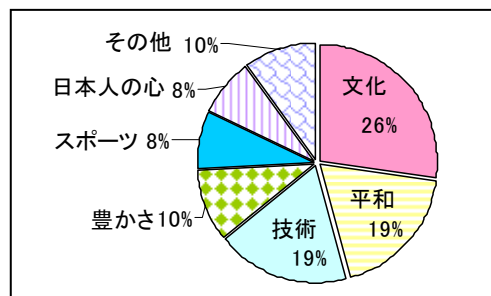


図2 日本について誇れるものや誇れること

4 開発研究

日本の伝統・文化を題材にした教材が東京都道徳教育郷土資料集第2集（平成19年3月東京都教育委員会）に収録されている。この中の2つの題材を用い、日本の伝統・文化を「身近な視点」と「世界からの視点」で捉えて考察を深める指導計画を開発した。

(1) 事例1 資料「麗しの歌舞伎座」を活用した例

シンガポールの友人が自国を誇りに思う姿から、主人公は自国を語れなかった自分を恥ずかしく思い、自分の近所にある歌舞伎座について調べていくうちに、歌舞伎座を誇りに思う心情が芽生える。主人公が自分たちと同じ中学生であることから、主人公の心情の変化を「身近な視点」として、自分だったらどうかを考えさせる。また、もう一つの「世界からの視点」とし

て、歌舞伎や日本の伝統・文化を愛する外国人の言葉を紹介し、日本の伝統・文化が非常に優れていて、海外からも高く評価されていることを紹介し、日本の伝統・文化の価値に気付かせることをねらいとした。

(2) 事例2 資料『江戸しぐさ』を考える』を活用した例

現代にも江戸しぐさの行動様式の一部が受け継がれていることを自分たちの体験から考えさせる。その際、指導の工夫の一つとして、江戸しぐさの一つである「うかつ謝り」について、生徒の実演を取り入れる。そこで、振り返った自分の体験が「身近な視点」となる。またその時に、江戸しぐさの基になっている心が、相手を思いやる心であることに気付かせる。そして、現代の日本人にも受け継がれているこのような文化が、海外からも高く評価されている視点を「世界からの視点」として与える。このような工夫をすることで、自分の中にも受け継がれている日本の文化を誇りに思い、継承することへの意欲とよりよい文化として発展させたいという意欲を育むことをねらいとした。

第3 研究の成果

平成22年9月から10月にかけて、都内公立中学校第1学年2クラスを対象に、開発した指導計画に基づいて道徳の授業を行い、その有効性について検証した。

1 「身近な視点」を取り入れたことの有効性

授業で紹介した3つの江戸しぐさ「傘かしげ」「うかつ謝り」「こぶし腰浮かせ」について、生徒の実演を見た後、自分の日常生活を振り返らせ、「江戸しぐさで現代に生きている習慣」について考えさせた。その結果、具体的に振り返ることができ、ほぼ全員が江戸しぐさに当たるような体験をしていたことが分かった。自分の体験と関連付けることにより、江戸しぐさを身近なものとして捉えることができた。生徒の体験を分類したものを以下、表1に示す。

表1 生徒が日常生活で振り返った「江戸しぐさで現代に生きている習慣」

分類	傘かしげ	うかつ謝り	こぶし腰浮かせ
生徒の体験	<ul style="list-style-type: none"> 傘をさしたまま、人とすれ違うとき、傘を少したんで、当たらないようにした。 傘がぶつからないように上に上げた。 相手と反対側に傾けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手にぶつかられた時、「ごめんなさい」と言われ、自分は「あ、大丈夫です。」と言り返した。 他の人とぶつかってしまったとき、自分から謝ったら、謝ってくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> 電車で友達と座っていたときに、「もっとつめて」と言って、おばあさんを座らせてあげた。 満員電車で、できるだけ多くの人が乗れるようにつめた。

2 「世界からの視点」を取り入れたことの有効性

表2「日本人の心や行動を海外から評価されていること」に対する生徒の感想

<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化を誇りに思うことができ、嬉しく思う。今まで気付いていなかったことも分かり、大切にしなければならぬな、と感じた。 評価されたことを誇りに思う。もっと日本人の心や良い行動を大切にしていきたいと思った。 日本の伝統・文化を誇りに思い、引き継いでいきたい。 外国の人が言っていることは、とても正しいことだと思う。その見方を心にとめ、伝統的な心を築きたい。 日本の文化が評価されて嬉しいし、また何かやるという気持ちがこみあげてくる。
--

表2は「日本の伝統・文化が海外から高く評価されていること」についての生徒の感想である。「世界からの評価」を知ったことで、嬉しさや、日本を誇りに思う気持ちをもち、伝統・文化を継承したいという意欲が高まったことが読み取れる。このことは、「日本の伝統・文化を継承するにはどうしたらよいか」を考えることにもつながる。多くの生徒がこのような記述をしていることから、「世界からの視点」を取り入れることは、生徒が日本の伝統・文化の価値に改めて気付き、伝統・文化を継承していく意欲を育むことに有効であったと言える。

3 2時間の検証授業後アンケート記述より

検証授業後の生徒のアンケートからは日本の伝統・文化の価値に気づき、日本を誇りに思うことができたとする記述が多く見られた。

表3 2時間の検証授業後のアンケート記述より

	生徒の感想	考察
日本人としての誇りを感じたという感想	<ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎などの伝統文化や日本の歴史を感じて、日本を誇りに思うことができるようになりました。人間、日本人として、これから生きていくうえで、「誇り」や「人間性」を大事にしていきたいと思います。 日本人だということを誇りに思っているのだなと思いました。人のことを気遣い、思いやる気持ちを大切にしたいです。 	外国人からの賞賛の声を聞いたことで、日本に誇りがもてたという感想が多かった。「人間性」に触れているのは、日本人に引き継がれてきた「人を思いやる文化」、「調和を大事にする文化」に気付いたためであろうと思われる。
意欲につながった感想	<ul style="list-style-type: none"> 日本はこんなにも多くの人からとても良い評価を受けていることを知りました。そして日本をさらに発展させてゆきたい。 日本はとても良い国だということが分かった。これからはちゃんと日本の文化を大切にしていきたいと思った。 	評価を受けた文化に対し、誇りを感じ、大切に守り、さらに発展させていこうとする意欲が育まれた。
先人への尊敬をもてた感想	<ul style="list-style-type: none"> 日本人の常識であることが、外国ではそうとは限らないことで、昔の人はいろいろ頑張っていたのだな、と思った。 江戸しぐさはすごいと思った。商人が心がけていることは最高だなと思った。 	優れた文化を育んだ先人への尊敬の念をもち、日本の文化や歴史を誇りに思う心が育まれた。

日本人の心や行動の中に生きる文化も取り上げたことから、誇りを感じるとともに「人間性」「生き方」「先人への尊敬」等にも思いを広げることができた。

4 アンケート調査による効果検証

質問「あなたは日本のことを誇りに思いますか。」について、検証授業を行った2クラスについて調査を行ったところ、生徒の変容についての結果は表4のようになった。「とても思う」と回答した生徒は、58.2%で、授業前と比較して、28%も増加した。「思う」を含めると91%が肯定的な回答をしていることになる。肯定的に捉えられるようになった生徒が増加した理由を以下の生徒の記述から読み取る。

今まで、私たちがやってきたことは、当たり前のことだと思っていました。でも、外国の人々の言っていることを聞くと、それは当たり前ではない、とても素晴らしいことだということが分かりました。これからは、日本のことを誇りに思い、日本人として自信をもっていきたいと思っています。

以上のように、日常の中での日本の伝統・文化のよさに気付いた「身近な視点」と、外国人から価値付けされた「世界からの視点」で日本の伝統・文化を捉えたことで、改めてその価値に気づき、日本人としての誇りを育むことに効果があったと言えるであろう。

第4 今後の課題

道徳の年間指導計画を作成する際、日本の伝統・文化を学ぶ点で、道徳の時間と各教科、学校行事、学級活動、総合的な学習の時間との関連付けを図り、生徒が学習内容を深められるよう工夫する。その際、世界から日本への高い評価があることを知らせたり、日本のことをよく学べる機会を設けたりするように計画する。また、「江戸しぐさ」の学習を生かし、日常生活でも実践できるようにするための計画を、生活指導部とも連携し、作成する。

表4 質問「あなたは日本のことを誇りに思いますか。」中学校第1学年2クラスの合計

	授業前	授業後
とても思う	30.8%	58.2%
思う	40.0%	32.8%
あまり思わない	20.0%	4.5%
思わない	9.2%	4.5%

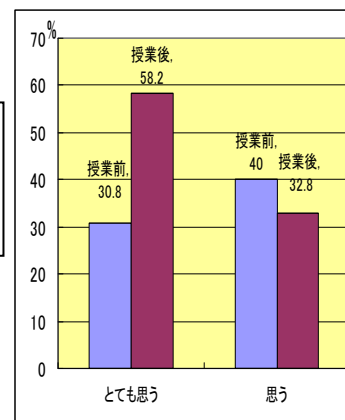


図3 あなたは日本のことを誇りに思いますか